

第16回「東京グリーンシップ・アクション」活動のお知らせ 東京に残された貴重な自然環境を守る

当社(社長:西尾進路)は、環境貢献活動の一環として、2004年11月から東京都が主催する「東京グリーンシップ・アクション」に参加し、今年度で第3期目に入ります。図師(ずし)小野路(おのじ)歴史環境保全地域(東京都町田市)での活動を継続する中で、6月16日(土)通算16回目となる第3期第3回目の活動に社員およびその家族がボランティアで参加しますのでお知らせいたします。

この環境保全活動は、典型的な里山の風景をそのまま残す「図師小野路歴史環境保全地域」にて、環境保全にかかわる地元農家の人々の指導のもと、社員ボランティアが年間を通して自然と共存しながらの伝統的な農法による農業を体験するものです。参加者はこの環境保全型農業体験を通して、里山の自然の動植物の価値や保全の大切さについて認識を深めていきます。

今年度第3回目の活動は、苗とりおよび田植えを行います。苗床から苗を引き抜き、1本ずつ苗をほぐしながら、とったものをわらで束ねます。それを5月に田おこした田に手作業で植えます。田植えは、年間の活動の中で一番人気の高い活動のひとつで、子供にぜひ体験させたいという家族を含む約50名の社員およびその家族が参加する予定です。

当社は、グループ理念に「エネルギーの未来を創造し人と自然が調和した豊かな社会の実現に貢献します」と掲げ、CSR活動強化の一環として、社会とのかかわりを大切に考え、積極的に環境貢献活動を推進しております。今後も、本活動をはじめ、ENEOSカードによる社団法人国土緑化推進機構への寄付、「ENEOSの森」の森林保全など、さまざまな環境貢献活動を継続的に実施してまいります。

記

1. 東京グリーンシップ・アクション

保全地域※における企業・NPO等と東京都が連携した自然環境保全活動です。企業は一定の資金の提供とボランティア活動を行うことにより、都内の貴重な自然の保護や回復に協力します。

※「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づき、都が指定する地域です。良好な自然地や歴史的遺産と一体となった樹林など、都内に残る貴重な自然地を都民の大切な財産として末永く残していくことが目的です。現在都内には45カ所の「保全地域」があります。そのうちの9地域で本活動が行なわれています。

2. 協定期間 2007年3月19日～2008年3月31日

3. 活動場所 図師小野路歴史環境保全地域(東京都町田市)

4. 提供金額 年間100万円

5. 参加者 協定期間中、8回の里山保全活動が予定されております。毎回、当社社員ボランティアが参加します。

6. 役割分担

- 東京都…活動の場の提供、道具類の貸与
- NPO(町田歴環管理組合)…活動の運営
- 企業(当社)…資金の提供、社員ボランティアの参加

7. 今期の活動内容

通算 回数 今期スケジュール

日程 活動内容 参加人数

14回 第1回 2007年 4月14日 講義および保全地域内見学 19名

15回 第2回 2007年 5月12日 草刈り、田起こし、水路の整備、畦補修 37名

16回 第3回 2007年 6月16日 苗とり、田植え 約50名(予定)

17回 第4回 2007年 7月14日 田んぼの草取り、周囲の草刈り

18回 第5回 2007年 8月 4日 むり干しと観察会

19回 第6回 2007年10月20日 稲刈り、稲の架け干し

20回 第7回 2007年11月 3日 脱穀

21回 第8回 2007年12月 1日 収穫行事体験

【参考】実施回数 参加人数

第1期(2005年) 全7回 117名

第2期(2006年) 全6回 163名

8. 図師小野路歴史環境保全地域の概要

指定年月日:

1978年7月4日

位置:

町田市の北部、図師町、小野路町にまたがる区域

面積:

366,056平方メートル

概要:

町田市北部のなだらかに起伏する丘陵地。丘陵と谷戸が複雑に入り組んだ地形、典型的な里山の景観を成しており、丘陵部のクヌギ・コナラなどの雑木林と、谷戸部の耕作水田や湿性草地からなる多様な環境を反映して、多様な野生動植物が生息・生育する。

地元農家を中心に結成された「町田歴環管理組合(任意団体)」が、都の委託を受けて、1996年度から昔ながらの農業手法による維持管理を行なっている。それにより、30年以上耕作放棄した谷戸田や溜め池が復元され、美しい里山の景観とともに、貴重な野生動植物が回復し、良好な自然環境を保全している。



前回(第15回)活動の様子1 <田起こし>



前回(第15回)活動の様子2 <田起こし>